

# Jsmn 備品管理アプリケーション

## 備品管理

企業における備品管理は、税務上の資産管理、担当者の異動・退職、余剰備品保管対策などの面から、重要かつ必須作業となっています。

しかし、人手の作業が多く、紙による管理も多く残っているのが現状で、データ手入力による作業負荷、データ投入ミスによる再作業、データ連携の不徹底などの問題も発生しています。

## Jsmn 備品管理アプリの特徴

これらの問題は、バーコードや RFID などの個体識別技術と読取り端末を利用することで解決することができます。執務フロアにおける HW 棚卸し作業工数比較の実証実験(当社実績)において 60%の効率改善が得られています。Jsmn 備品管理アプリケーションは、備品と場所・社員を簡単に紐付けます。

本アプリの個体識別技術には、1次元バーコード、2次元バーコード、13.56MHz の RFID を利用しています。また、ucode、JAN コード、社内独自コードなどのマルチコードにも対応しています。

読取り端末の業務用ユビキタスコミュニケーター(業務用 UC)は、バーコードリーダーと RFID リーダライタを装備しています。

Jsmn 備品管理アプリケーションは、Jsmn(UC 向け開発スクリプト言語)上に実装されているため、カスタマイズなどが短期間・容易に行え、実証実験からはじめて、実システムへと拡張するアプローチに最適です。拡張例としては、携帯電話と同じキー配列を利用して数字やテキストの入力を行ったり、無線ネットワークを経由してサーバアプリケーション連動などがあります。

## 組込み向け JavaScript エンジン

Jsmn は、Firefox の JavaScript エンジン (SpiderMonkey)を組込み向けに移植し、ソースコード・実行バイナリをオープンソースとして公開しています。Web プログラミングを中心に普及したスクリプト言語をオープンソースとして公開することで、組込み技術者不足の解消、頻繁に少量のロジック変更に対応、ライセンス料や開発コスト・開発期間の削減を可能にします。

## 連絡先

<http://www.tyzoh.jp/> adtech-box@unisys.co.jp

日本ユニシス株式会社 先端技術部

〒135-8560 東京都江東区豊洲 1-1-1

TEL 03-5546-4111

ダウンロード：

[http://dev.tyzoh.jp/trac/mcodepf/wiki/Jsmn\\_inventory](http://dev.tyzoh.jp/trac/mcodepf/wiki/Jsmn_inventory)



# Jsmn 学習リモコン / 旅行ナビ アプリ

## 学習リモコン

家庭内では、テレビ、ビデオ、エアコン、照明などさまざまなリモコン機器が使われています。これらのリモコンは主に赤外線によって操作を伝える信号を送っています。この信号を受信し、記憶することで複数のリモコンを一台にまとめる事ができるようにしたのが学習リモコンです。

## Jsmn 学習リモコンアプリの特徴

UC05/06 には赤外線ドライバが装備されているので、これを用いたサンプルアプリです。1 ページには 3 × 4 の 12 個の記憶ボタンを配置しており、「青、赤、緑、黄」の 4 ページ分のボタンを記憶する事ができます。

まずは学習モードで記憶したいリモコンの信号を記憶させます。画面を切り替えながら複数機器を記憶させたりすることも可能です。その後は送信モードで切り替えます。そのモードで記憶したボタンをタッチして信号を送ると元のリモコンと同じように操作できます。

また、「記憶したボタンを全て初期化」「設定ファイルに書き込む」「設定ファイルから読み込む」といった機能も備えています。

拡張例としては、ネットワークを利用しての外出先からビデオ予約を行うための機能などが考えられます。



## 旅行ナビ

「いつでも、どこでも、だれでも便利に情報を利用できる」というユビキタス社会において、旅行に出たときに、その場所毎の情報をリアルタイムに表示できるようなナビゲーションが提供出来れば初めての土地でも安心して旅行が楽しめると思います。

## Jsmn 旅行ナビ アプリの特徴

「東京ユビキタス計画・銀座」の一般公開実験は、平成 20 年 1 月以降に予定されています。その実験用に作成したアプリケーションです。

場所に設置された赤外線マーカ、無線マーカからの ucode を受信、あるいは、設置してある RFID の ucode を読み取るとその ucode に対応した情報をリアルタイムに取得して表示します。また場所に合わせたクイズやアンケートを行う事も想定しています。

読み取った ucode や受信した ucode を自動で記録するので後から自分がどこを歩いたかを地図モードで確認を行う事もできます。「前位置」「後位置」を選ぶと受信した位置を順に画面上でスクロールして表示します。

リアルタイムに情報を取得するという事で、店舗からのタイムサービス情報、天気合わせた情報や、交通情報の取得、さらには災害時の避難誘導にも利用できると考えています。

